

一之鳥居

一之鳥居が春日大社の正式な入口であり、国の重要文化財に指定されています。もともとは平安時代（794～1185）に創建されましたが、現存する鳥居は 1638 年に建てられたものです。

一之鳥居は、春日大社の東にそびえる霊山、御蓋山の真西に建っています。また鳥居の西には、三条通りがあります。三条通りは、710 年に成立した奈良の古都、平城京の中心に向かって一直線に走り、古都と神社をつなぐ道でもありました。

鳥居は、神道の重要なシンボルで、神域への入口を示しています。春日大社の一之鳥居は、朱色に塗られた最古の鳥居の一つでした。一番上のまっすぐな横材と先細の支柱が特徴の鳥居としてはもっとも早くからあるものの一つで、この様式は春日大社発祥のため、「春日鳥居」という名で知られています。